

第3学年1組 音楽科学習指導案

日 時 平成30年11月22日（木）
場 所 島根県民会館 多目的室
指導者 松江市立湖南中学校 教諭 佐久間 理恵

1 題材名 ジャズの要素をつかってセッションしよう

2 題材の目標

ジャズ特有の音階やリズム、コール・アンド・レスポンスなどの要素をつかって旋律をつくりかけ合いをしたりする活動を通して、構成を工夫しながら創作表現をする能力を育てる。

3 題材設定の理由

(1) 題材について

中学校の創作活動においては、言葉や音階などの特徴を生かし表現を工夫して旋律をつくる能力や、素材の特徴を生かし反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくる能力を高めていくことが求められている。

本題材では、オフビートと呼ばれる独特のリズムや即興演奏が特徴的なジャズの要素を取り入れて創作活動を行う。音階としてはブルーノートスケール、構成としてはコール・アンド・レスポンスなどのジャズの要素に着目し、個の表現とグループの表現とを関連させながら、自由な中にも統一感やまとまりのある音楽をつくる能力を育てることをねらいとしている。

(2) 生徒について

<個人情報保護のため省略>

(3) 指導にあたって

本題材では、第2学年で扱った4つのリズムパターンを組み合わせて、一人一人がオリジナルの“マイ・メロディー”を創作する。コードが加わることによって生まれる雰囲気の違いにも注目しながら“マイ・メロディー”を変化発展させる。また、個とグループのかけ合いのおもしろさを体験させるために、グループで繰り返し演奏する“アワ・パターン”を創作する。そして、コール・アンド・レスポンスでセッションしながら始め方や終わり方も工夫して、自由な中にも曲全体のまとまりや統一感のある音楽にしていきたい。また、ジャズのリズムになじむための常時活動や鑑賞を効果的に取り入れて、創意工夫の手がかりとしていきたい。

4 学習指導要領とのかかわり

(1) 本題材で指導する事項 A表現(3)イ

(2) 取り扱う主な音楽を形づくっている要素

旋律 リズム テクスチャ 構成(反復、変化、対照)

5 教材

「Take Five」 ポール・デズモンド作曲
「ピンクパンサーのテーマ」 ヘンリー・マンシーニ作曲

「Oh Happy Day」

エドウィン・ホーキンス作曲

「きらきら星変奏曲」

モーツアルト作曲（ジャズヴァージョン）

「Smoke On The Water」

ディープ・パープル

6 評価規準

(1) 領域・分野と評価の観点との関連

	ア) 音楽への関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の創意工夫	ウ) 音楽表現の技能	エ) 鑑賞の能力
A・歌唱				
A・器楽				
A・創作	○	○	○	
B・鑑賞				

(2) 題材の評価規準

ア) 音楽への関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の創意工夫	ウ) 音楽表現の技能
① ブルーノートスケールとジャズ特有のリズムパターンに関心を持ち、旋律をつくる活動に意欲的に取り組んでいる。	①ブルーノートスケールを使って、色々なリズムを組み合わせながら旋律づくりを工夫している。 ②自分のつくったメロディー（“マイ・メロディー”）を、反復や変化などを使って発展させる工夫をしている。 ③ “マイ・メロディー” をグループのセッションの中でさらに工夫している。	①ジャズの要素を効果的に取り入れて“マイ・メロディー”と“アワ・パターン”のセッションをしている。

7 指導と評価の計画（全4時間）

次	時	主な学習活動（○ねらい・学習活動）	教材	評価規準と評価の方法
一	1	○ブルーノートスケールとリズムパターンを使って、“マイ・メロディー”をつくることができるようにする。 ・グループで、「レスポンス」の部分の“アワ・パターン”をつくる。 ・コード（C7→F7→G7→F7→C7）に合わせて“アワ・パターン”を演奏し、コードによって旋律の雰囲気が変わることを知り、コードのベース音を弾いてみる。 ・「きらきら星変奏曲」（ジャズヴァージョン）を聴く。 ・“マイ・メロディー”をつくる。	キーボード ワークシート 「きらきら星」（ジャズヴァージョン）	ア① 活動の観察 イ① 演奏の聴取 ワークシート
		○ “マイ・メロディー” をさらに工夫し、変化させた旋律をつくることができるようにする。	キーボード ワークシート	

二	2	<ul style="list-style-type: none"> グループで創作した“アワ・パターンのリレー奏をする。 前時につくった“マイ・メロディー”を聴き合い、創作の参考にする。 「きらきら星変奏曲」（ジャズヴァージョン）を、工夫されている点に注目しながら聴く。 “マイ・メロディー”を変化させた旋律（「コール」）をつくる。 	ト 「きらきら星」（ジャズヴァージョン）	イ② 演奏の聴取 ワークシート
	3 （ 本 時 ）	<p>○コール・アンド・レスポンスの形式を使ったグループのセッションの中で、“マイ・メロディー”の表現をさらに工夫することができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループでつくった“アワ・パターン”をリレーしながら、コール・アンド・レスポンス”を体験する。 コール・アンド・レスポンスの形式で演奏される「Oh Happy Day」を視聴する。 グループで、“マイ・メロディー”と“アワ・パターン”の組み合わせについて話し合う。 コール・アンド・レスポンスの形式を使ってグループで音楽をつくる。 いくつかのグループの表現を聴いて、自分のグループの音楽づくりの参考にする。 「ピンクパンサーのテーマ」と「Take Five」の一部を聴き、次時に工夫するイントロとエンディングの参考にする。 	キーボード ワークシート 「Smoke On The Water」 「Oh Happy Day」 「ピンクパンサーのテーマ」 「Take Five」	イ③ 活動の観察 演奏の聴取
三	4	<p>○ジャズの要素をつかかってつくった自分たちの音楽を聴き合い、そのよさを共有することができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループごとに演奏し、意見交換する。 	キーボード ワークシート	ウ① 演奏の聴取 ワークシート

8 本時の学習（本時 3 / 4）

（1）ねらい

コール・アンド・レスポンスの形式を使ったグループのセッションの中で、“マイ・メロディー”の表現をさらに工夫することができるようにする。

（2）展開

学習活動	教師の支援	評価規準と評価の方法
1 各グループでつくった“アワ・パターン”をそれぞれのグループで演奏してみる。	<ul style="list-style-type: none"> 創作の参考にしたリズムパターンのカードを掲示しておく。 	

<p>2 各グループの“アワ・パターン”をリレーしながら、コール・アンド・レスポンスの形式を体験する。</p> <p>3 今日のめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> “アワ・パターン”のリレーの間に、以前創作に使った「Smoke On The Water」の旋律を教師がはさみ、自然にコール・アンド・レスポンスの形式に導く。 パターンが交互に現れていることを可視化しておく。 	
<p>グループで、コール・アンド・レスポンスをしながらセッションしよう。</p>		
<p>4 ♡ コール・アンド・レスポンスの形式で演奏される「Oh Happy Day」を視聴する。</p> <p>5 グループで、各自がつくった“マイ・メロディー”を互いに紹介する。</p> <p>6 グループで、“マイ・メロディー”と“アワ・パターン”をどのように組み合わせるか話し合う。</p> <p>7 ☆ 話し合いをもとに、コール・アンド・レスポンスの形式を使ってグループで音楽をつくる。</p> <p>8 いくつかのグループの表現を聴いて、自分のグループの音楽づくりの参考にする。</p> <p>9 「ピンクパンサーのテーマ」と「Take Five」の一部を聴き、次時に工夫するイントロとエンディングの参考にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コール」と「レスポンス」のかけ合いにおける、旋律やリズムの自由な変化に注目するよう助言する。 変化ヴァージョンもできている生徒は、工夫した点も紹介するよう促す。 構成の工夫の話し合いがスムーズに進むように、カードを準備する。 演奏しながら、さらにメロディーを変化させることができる生徒には、自由な創作を支援する。 よさが共有できるよう、聴く視点を分かりやすく示す。 リズムのみで始まったり、ベース音にコードが徐々に加わったりしていくイントロや、フェイドアウトしていくエンディングなどを紹介し、次時への意欲を高める。 	<p>イ③ 活動の観察 演奏の聴取</p>

(3) 予想される生徒の具体的な姿
評価の観点

イ③【音楽表現の創意工夫】 “マイ・メロディー”をグループのセッションの中でさらに工夫している。

<p>十分満足できると判断される生徒の姿の具体例</p>	<ul style="list-style-type: none"> 旋律の流れを大切にして、リズムパターン以外のリズムを取り入れたり、“マイ・メロディー”に順次進行や反進行を取り入れたりして、旋律をつくっている。 “アワ・パターン”とのつながりや統一感を感じながらセッションの中で“マイ・メロディー”をさらに変化させている。
------------------------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・ “マイ・メロディー” に即興的に装飾音を取り入れている。 ・ “マイ・メロディー” を変化させた旋律を複数つくって演奏に取り入れている。
おおむね満足できると判断される生徒の姿の具体例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一部分、リズムを細かくしたり、音を増やしたりして、マイ・メロディーを変化させる工夫をして旋律をつくっている。 ・ セッションの中で、音楽の流れにのって “マイ・メロディー” を表現している。 ・ “マイ・メロディー” を変化させた旋律を、何度も繰り返し試して演奏している。
支援を要すると判断される生徒の姿の具体例と支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ どのように “マイ・メロディー” を変化させたらよいか分からず活動が進まない。 → “マイ・メロディー” のリズムや音を一部分だけ変えてみるよう助言する。 ・ どのように組み合わせたらよいか分からず、個人作業になったり活動が止まったりしている。 → まず一人一人の “マイ・メロディー” から始め、間を “アワ・パターン” でつなぐよう助言する。

(4) 授業研究の視点

- ジャズの要素をつかったことで生徒の創作の意欲が高まったか。
- セッションという形を取り入れることで、自分の旋律をさらに工夫することにつながったか。
- 生徒の意欲を高めるための鑑賞曲の選曲が適切だったか。